

「展示リニューアル基本計画（中間案）」に対するご意見と「同（素案）」との関連

	No.	ご意見の概要	基本計画（素案）との関連
コンセプト等	1	科学館が担うべき最も大切なことは「良質な実体験」の提供による学ぶことの楽しさや感動を提供することにある。	→p.26 参加体験型の展示や体験活動を充実させる。 →P.28 ,29, 32「サイエンストレーニング」や「チャレンジラボ」スペースを活用し実体験を重視する。
	2	地域の科学館としては、最先端の科学技術や専門的な知識に偏った提供ではなく、科学の入り口としての機能、つまり原理原則に沿った展示をするとともに、主体的な個々の学びの深化へと導いていく役目がある。	→p.28 4階に科学の原理原則を学ぶエリア（科学の探究エリア）を設置し、3階の科学と社会とのつながりを知るエリア（くらしと科学エリア）と関連させながら、学びを深め興味関心を広げていけるように工夫。
	3	昭和27年「サイエンスルーム」の創設以来からの取組である科学館学習の成果は絶大であり、科学館学習（展示学習）の場として構成する視点については重点をおくべきである。	→p.26, 28, 29, 38 4階科学の原理原則を学ぶエリア（科学の探究エリア）にて展示学習を充実させる。
対象・ターゲット等	4	中学校程度の基礎科学に焦点を当てた展示展開は重要。理工系や生活系は未来を担う小中学生をターゲットに。	→p.26 幅広い年代層が科学への興味関心を高め、その年代やニーズに応じた学習ができるよう展示内容やゾーニングを工夫。
	5	幼児層の興味関心に応えつつ親子で学べるファミリーラーニングの視点も必要。ただし、低学年や未就学児への比重をあまりにも大きくし、本来の目的を見失いアミューズメントパーク化してしまわないように。	
	6	母が子を連れて行ける場所をほしがっている。幼児にとっては体験エリアは必須。コメントスタッフがいるとよい。	
	7	リカレント教育（生涯学習の視点）も大切にしてほしい。本来の人の学びを支える場として、大人の学びの場所としても充実させてほしい。	
展示物	8	モデル化や動画で代用するのではなく、博物館としての持ち味「実物主義」を大切にしてほしい。	→博物館として「実物」「本物」を重視する。効果的な解説手法として、デジタルコンテンツや映像等を適切に取り入れていく。※p.40参照
	9	自然教育や環境教育については、バーチャルなCGや標本だけではなく本物に触れる体験が必要。	→p.30 「宮城・仙台の自然」というテーマを掲げ、地域性を重視していく。 →p.36 アイディア3「ミュージアムパーク」により、隣接する台原森林公園内での学びを誘導する。
	10	・自然史は仙台の自然を明確にすることには賛成（地域で発見された化石やミヨコゾウなど）。 ・地学コーナーの起震装置にはやや違和感がある。	→起震装置については、設置コーナーを検討していく。

	No.	ご意見の概要	基本計画（素案）との関連
展示 テーマ 等	11	仙台の自然の4テーマがバラバラでストーリーが見えない。	→p.28-30 「高地から低地」, 「河川から海」, 地層に残された痕跡などから「過去から現在」といったストーリーの下, 科学と出会うエリアに修正。
	12	科学技術等については, 科学と人間のあり方を考えることが主眼に。思考を深める場である必要がある。	→科学技術の発展や科学の活用を自分事として捉えることができるよう検討していく。
	13	科学技術の4テーマあるが, すべてを網羅するのはスペース上難しい。スポットを当て関連情報や関連施設を紹介するような形になるか。	→p.32 4つのテーマに縛られることなく, 時代や社会のニーズに応じてフレキシブルに対応できるようにする。
防災	14	科学的な視点から防災教育を行うのであれば, 関連展示を体系的に見ながら理解を深める工夫が賢明と考える。	→p.28 まとまった見せたかとして3階「防災と科学」を設置。また体系的に理解を深める上で, 4階との紐付けを行う。 →小学生の科学館学習にも対応できるよう検討していく。
	15	防災はまとまった見せ方がよい。	
	16	防災教育も含めて小学生の科学館学習（大地のつくり）も可能か。	
動線	17	動線の必要性はあまり感じない。来館者の興味関心に基づく自由動線を主に。主体的な知の深化を図る工夫を。	→来館者を自発的な学びに導くよう工夫する。 ※p.40, 41参照⇒年齢層に応じた解説補助コンテンツや展示ナンバリングの導入
その他	18	「旅行商品」という表現にはやや違和感を覚える。ターゲットを決めるか, 地域性を出すのか。	→p.26 修学旅行や校外学習で訪れる小中学生や未就学児を主な対象の一つにして検討していく。